

## あ と が き

幼児期の教育の体制が変わろうとし、幼児期の教育がさらに重視されるようになってきています。平成 27 年度、より質の高い幼児期の教育を提供することを基本理念とする『子ども・子育て新制度』が始まり、昨年 4 月には、国立教育政策研究所において幼児教育研究センターが新設されました。さらに、今年の 3 月には、平成 30 年 4 月から実施される新幼稚園教育要領が告示され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記されました。5 歳児後半の幼稚園等と小学校の教員が持つ 5 歳児修了時の姿が共有化されることにより、幼児期の教育と小学校教育との接続が一層強化されることと思われます。

石川県においては、28 年度に地域の幼児教育の拠点となる「幼児教育センター」の設置や、幼稚園・保育所・認定こども園等を巡回して指導・助言を行う「幼児教育アドバイザー」の育成・配置等を目指す、幼児教育の推進体制構築事業が始まりました。その準備会には、国立、公立、私立、幼稚園、保育所、認定こども園と、幼児期の教育に関わる施設の代表や大学の研究者等有識者が集まり、様々な議論や事業の試行を行っています。「幼児教育センター」設置や、「幼児教育アドバイザー」の育成・配置にはまだまだ時間がかかりそうですが、今後、石川県の幼児期の教育の質の向上が全体的に図られることにつながっていくでしょう。

このような状況の中、本園は平成 26 年度から幼小接続の研究を念頭に置きながら、『幼児期の教育における学びを探る』をテーマとし、研究を進めています。本園の研究は保育のエピソードを研究会に持ち寄り、実際の子どもの姿をもとにテーマに迫るための視点をもってカンファレンスを行うスタイルです。その研究方法はテーマに迫ることにプラスして、明日の保育を創ることにもつながっています。研究のための研究ではなく、日常の保育の充実につながる研究を進めることを大事にしています。昨年度の研究で「幼児はアクティブ・ラーニングを行っている」ということを子どもなりに発信することができました。今年度は、その姿を促す環境の構成と教師の援助について明らかにすることを目的に研究を進めてきました。拙い研究物ではありますが、その研究をこの研究紀要にまとめましたので、ご一読いただけると幸いに存じます。

最後になりましたが、本園の研究会にご参加いただき、様々なご示唆ご指導をいただきました本学の先生方はじめ、これまでの研究にご指導いただいた多くの先生方に厚く御礼申し上げます。今後の研究の更なるご批判ご指導をお願い申し上げます。

平成 29 年 6 月

副園長 上田 ますみ

## 研究協力者

金沢大学	教授	滝口	圭子
金沢大学	准教授	本所	恵
金沢大学	准教授	浅川	淳司

## 研究同人

山下	浩	苗代	京子
上田	ますみ	橋田	梨沙
西多	由貴江	信木	慎也
和田	紀子	天満	弥生
島崎	聡子	林	博之
草場	勇介	高崎	愛理
岩田	潤治	由里	真由美
木林	晴美		

発行日 2017年6月9日

発行 金沢大学人間社会学部附属幼稚園  
金沢市平和町1-1-15  
076-226-2171

製本 株式会社 栄光プリント